

社会福祉法人北海道療育園**多機能型事業所「ワークセンターびぼろ」(網走郡美幌町)**

○基礎情報【経営形態：クリーニング業務受託、清掃業務受託、食堂業務受託、
農作物の生産・販売、甘納豆製造販売等】

【従業員：15名、事業所利用者：40名(知的、身体障がい者など)】



<問い合わせ先> ワークセンターびぼろ
☎ 0152-75-0330 URL www.bihoro-ryoiku.jp/piporo/

1 農福連携に取り組んだ経緯

病院からのクリーニング業務及び清掃業務がメインだったが、事業所利用者(以下、「利用者」という。)の作業量確保や作業の選択肢を増やしたいと考えていた。また、利用者の中には、散歩など外出することが好きな方もおり、屋外で自然に触れる作業も取り入れたいと考えていた。

隣接の未利用町有地を圃場として利用できるようになり、自家消費用に農作物の生産を始めた。町内にある食品事業者からの依頼で加工用トマトを生産・販売したことが農福連携のスタート。

2 取組内容

- (1) 就労形態：法人内グループの病院から受託するクリーニング業務、清掃業務、食堂業務、民間企業から受託する室内軽作業のほか、農作物の播種から収穫までの一連作業、除雪作業(冬期)などを行う。
- (2) 就労期間：通年(事業所は年中無休)
- (3) 就労時間(休憩)：毎日9:00~16:30(昼1時間、午前・午後15分ずつ)
- (4) 工賃：平均約20,000円/月
- (5) 送迎：町内一部送迎あり。送迎利用以外は通勤手当支給あり。
- (6) 昼食：食材費実費負担にて、病院の職員食堂から日替わり弁当を配食(コロナ禍前は食堂利用)。

**3 取組の特徴**

- (1) 新型コロナウイルス感染症が発生する以前は、クリーニング業務、清掃業務がほとんどだったものの、新型コロナの影響により利用者を分散する必要がでてきたため、利用者を4班に分け、屋外作業が好きな利用者を農作業専属として配置。
- (2) 農作業を行う利用者の障害区分は、知的障害が8割、身体障害が2割。男女比率は男性9割、女性1割。
- (3) 屋外で体を動かすことを目的に農作業を取り入れたことから、3~11月は農作業、12~2月は法人敷地内除雪作業に従事。冬場は、食品事業者から受託する食品包装へのラベル貼りなどの軽作業も行う。
- (4) 作物は、ハウレン草、レタス、加工用トマト、ミニトマト、とうもろこし、ピーマン、なす、とうがらしなどを露地とハウスで栽培している。
- (5) 収穫した作物は、法人内病院職員のほか、卸業者、飲食店、観光物産協会へ販売。また、規格外の作物を病院内の食堂で利用するなど、有効活用している。

4 障害者就労への考え方

- (1) 利用者の性格、能力、特性などを考慮し作業を割り振りするなど、無理せず長続きする環境整備が必要。
- (2) 障がいの状態により、できる作業できない作業があるので、利用者それぞれの好きな作業、得意な作業を見極めたうえで、できる作業をできる人に担当してもらっている。
- (3) 作業前後や休憩前後にチャイムを鳴らすことで、確実に休憩を取れるよう配慮。
- (4) クリーニング業務を含めて、業務を受託する際には、納期に余裕を見るなど利用者に配慮する必要があるが、そのことは発注元(納品先)にも理解があり助かっている。

5 今後の予定や将来展望

- (1) トラクター導入など、もう少し機械化したい反面、危険性も考慮する必要があると決められずにいる。
- (2) 水耕栽培など様々な栽培方法に関心を寄せているが、実施には至っていない状況。

